

## 一目でわかる商品 産業用ヘンプ特集の解説 Q&A

産業用ヘンプは、1990年代から欧州やカナダにおいて、環境と健康にやさしい新規作物として注目され、THC濃度基準に基づく規制緩和を行い、栽培と市場が拡大してきました。

また、2013年夏に米国のCNNの医療番組で有名になった非酩酊性のCBD（カンナビジオール）は、2014年農業法による研究栽培と2018年農業法による全米での商業栽培の解禁をきっかけに、CBD生産のための栽培が一気に広がりました。

世界的にヘンプの栽培と市場に注目が集まっている中で、国連機関が歴史上初の産業用ヘンプに関する報告書を発行しました。北海道ヘンプ協会では、国連貿易開発会議（UNCTAD）が作成した「一目でわかる商品 産業用ヘンプ特集」全84頁を仮訳し、解説Q&Aとともに公開いたします。日本のヘンプ産業の今後を考える上で参考となれば幸いです。

原文 URL <https://unctad.org/webflyer/commodities-glance-special-issue-industrial-hemp>

仮訳 URL <https://www.hokkaido-hemp.net/resource.html>

### Q1 この報告書は誰が作成したのですか？

A1 1964年に常設の政府間機関として、また国連総会の補助機関として設置された国連貿易開発会議（UNCTAD、アンクタッド）によって作成され、22年11月末に発行されました。UNCTADは、南北経済格差の解消のために開発途上国を支援する役割を担っていることで知られています。

これまで、医療用や嗜好用大麻に関する国連レポートは多数ありましたが、産業用ヘンプの国連レポートは歴史上初めてです。過去の一目でわかる商品シリーズには、竹、カシューナッツ、コーヒー、燃料電池原料、シェールガス、アラビアゴム、金などの1次産品に関する報告書を作成しています。

### Q2 この報告書にはどんなことが書いてありますか？

A2 ヘンプの一般的な用途と、それらが国際的な生産・貿易統計にどのように反映されているかについて論じています。目次は次の通りです。

第1章 はじめに

第2章 背景：分類学、植物学、用途と規制

第3章 バリューチェーン

第4章 需要と供給

第5章 価格

第6章 政策提言

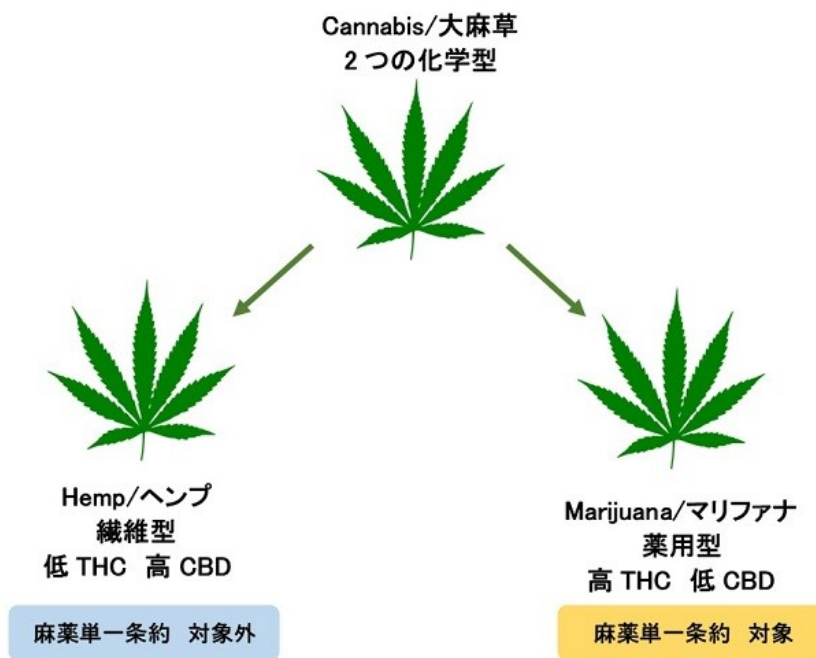
Q3 国際貿易においてヘンプの法的地位はどうなっていますか？

A3 1961年麻薬単一条約では大麻草と大麻樹脂、大麻抽出物とチンキ剤を、1971年向精神薬条約ではΔ9-THCと6つのTHC異性体が国際的にそれぞれ規制されています。

Δ9-THC（デルタ9-テトラヒドロカンナビノール）は、大麻草に含まれている醜酐成分として知られていますが、麻薬単一条約を制定した後の1964年にイスラエルの化学者によって発見されたため、単一条約には記載がありません。

そのため、単一条約では、栽培目的による区別をしています。薬物目的（医療を含む）の生産のための大麻栽培は、条約の規制対象です（1961年麻薬単一条約第1条1項（C））。ヘンプが担っている産業目的や園芸目的の栽培は、条約の規制対象外です（1961年麻薬単一条約第28条の2）。

条約加盟国であるヘンプ栽培国では、醜酐成分であるΔ9-THCの濃度基準を0.2～1.0%以下の範囲で設定して、ヘンプとマリファナを区別した規制が行われています。



国際的なヘンプの法的地位についての詳しい議論は、下記を参照してください。

<https://www.hokkaido-hemp.net/20200903-jp.pdf>

**Q4 この報告書ではヘンプをどのように見えていますか？**

**A4** 第1章はじめに（3頁）、次のように紹介されています。

「花と子実、茎と葉、根は、医療、工業、栄養など様々な用途があることから、その利用は大きな農業利益を生み出す可能性がある。したがって、植物のすべての部位を利用する、いわゆる全草アプローチが、あらゆる分野の開発戦略の中核となるべきである。このアプローチにより、農村部や製造業、食品加工業の成長に貢献できる生産チェーンの構築が促進される可能性がある。」

**Q5 ヘンプは、全世界でどれぐらいの国が栽培していますか？**

**A5** 国連加盟国数 193 か国のうち、ヘンプを栽培している国は、40 か国あります。

ヘンプ繊維 28~30 か国、ヘンプ子実 14~16 か国で栽培されています。

しかし、国際的な統計情報は正確な値ではありません。例えば、FAO 統計（2019 年）では、全世界で約 8 万ヘクタールのヘンプ栽培面積がありますが、これにはカナダや米国等のデータは含まれていません。

**Q6 ヘンプは、国際貿易の統計においてどれぐらいの市場規模ですか？**

**A6** 貿易統計の項目が少ないため、正確な実態を反映できていません。

2020 年における全体の貿易額は約 50 億ドル（約 7000 億円）と推定されていますが、国際貿易の統計では 4,200 万 US ドル（58.8 億円）でしかありません。

**Q7 将来的にヘンプは、どれぐらいの市場規模になると考えていますか？**

**A7** タイ・バンコクに本拠を置くアユタヤ銀行の研究部門クルングスリ・リサーチ・インテリジェンスの数字を引用して、2027 年には 2 兆 6040 億円と 2020 年の 5 倍以上に拡大すると予測しています。

**Q8 ヘンプ原料の国際貿易の価格(2020 年時)はどれぐらいですか？**

**A8** ヘンプ繊維（生/レッティング処理済み）は、平均 193.2 円/kg、ヘンプくず（半加工ヘンプ：オガラ/コア及び繊維くずを含む）は、131.6 円/kg、ヘンプ糸は、1274 円/kgでした。CBD アイソレート（単離物）では、21 年 11 月時点で 168,000 円/kg（米国市場）であったが、その後下落傾向が続いています。

Q9 ヘンプ産業の促進のために各国政府に何を求めていますか？

A9 第6章政策提言（62頁）では、次のように指摘しています。

「ヘンプのバリューチェーンは、農村部の成長を後押しし、製造業と食品加工業の双方に貢献することができる。しかし、そのような可能性を十分に生かすためには、各国が具体的な行動を起こす必要があるかもしれない。まず、ヘンプの法的地位と嗜好品である大麻の法的地位を明確にすることが、各国政府に求められている。そうすることで、国内生産者が法的措置に巻き込まれる金銭的リスクを最小限に抑えることができる。」

Q10 この報告書は、日本のヘンプ産業の振興にどのように活用できますか？

A10 我が国では、2023年以降に大麻取締法が改正され、諸外国と同様に大規模栽培の可能性が期待されていますが、需要と供給、市場価格などの国際貿易上の情報を知ることができませんでした。この報告書を通じて、ヘンプの用途や生産・貿易統計について学ぶことができます。

特に、第6章の政策提言の情報、規制の枠組み、持続可能性、産業戦略という4つの政策領域は、世界のヘンプ産業が目指す方向性を知り、日本の産業振興のヒントになると思われます。

Q11 この報告書以外にヘンプ産業についての資料はありますか？

A11 北海道ヘンプ協会では、下記のことを仮訳した資料をWEBサイトで公開しています。  
ぜひダウンロードしてお読みいただければと思います。

日本のヘンプ産業は、米国コロラド州から何を学べるか？

米国コロラド州ヘンプ推進・管理計画 C.H.A.M.P.最終報告書の解説 Q&A

米国コロラド州ヘンプ推進・管理計画 C.H.A.M.P.最終報告書（翻訳版 全76頁）（2022年12月10日）

国内における播種用アサ種子の確保・供給はどうするの？ 解説 Q&A（22年5月30日）

米国議会調査局（2019）ヘンプの定義：ファクトシート（翻訳版 全12頁）（22年4月30日）

米国ヘンプ農業法に対応した2020年麻薬取締局（DEA）規則（翻訳版 全14頁）

米国ヘンプ農業法に対応した2020年麻薬取締局（DEA）規則 解説 Q&A（22年4月30日）

米国ヘンプ農業法最終規則（翻訳版 全96頁）

米国ヘンプ農業法最終規則 解説 Q&A（22年4月8日）

ダウンロードはこちらのWEBサイトから可能です。

<https://www.hokkaido-hemp.net/resource.html>